地域の教育素材の活用『人』『もの』『こと』

十日町市立ふれあいの丘支援学校　図工・美術部主任（小学部）武田比呂美　H28.12.26

1　提案の概要　＊地域との関係づくりをプロデュース＊

３つの視点・・・・「人」「もの」「こと」

子どもの生活の場である『地域』とのかかわりは、生涯にわたって続くものである。未来を生きる子どもたちが、地域と豊かにかかわり、より生き生きと生活を楽しめるようになってほしい。そのためには、そこに住む「人」、そこに存在する「もの」、そして季節毎に変化する自然や行事といった「こと」、との好ましい関係づくりを積極的に行うことが重要であると考える。地域の様々な教育素材を教材化して取り組むことによって、「また行きたい！」「またやってみたい！」等、興味関心が高まることを期待する。

2　実践

(1)　Ｈ２６～２８全校「キルトの街の展覧会」見学

十日町市民体育館を中心に市街の店内にキルト展の作品が展示されている。Ｈ２６から始まり３年目になる。お店を見学させてもらっていたところ、「市民体育館もぜひ見て下さい」という主催者である田村さんのご厚意から始まった見学である。回数を重ね、気に入ったキルトの前で写真を撮ることを楽しみにしている。中学部では、帰校後、お気に入りの写真に紹介文を書いている。

見学感想

「市民体育館にキルト展を見に行きました。きれいで触ってみたくなりました。(小児童)」

「僕が見た作品は、『生物ワンダーランド』です。動物の生命を感じました。(中生徒)」

(2)　Ｈ２７全校「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」見学

ＮＰＯ法人越後妻有里山協働機構職員の方の協力を得て、ＴＴで事前オリエンテーションを実施。さらに、小中児童生徒の関係性を高めるための話し合いや旗づくりを事前学習として行った。小中二人ペアで一緒に楽しく見学し、リーダーシップ、フォロアーシップを育むことができた。教職員間の相互理解も進み、小中ペアによる学習の有効性を生かして、様々な学習場面で積極的に取り入れるようになった。３年毎に当地で行われる芸術祭であり、Ｈ３０実施に向け、プレ見学を検討している。

(3)　Ｈ２８小学部（４．５．６年生）親子木工教室

Ｈ２５に新校舎建築に携わった建築家と十日町市建築組合青年部の協力を得て、親子で椅子を制作することに。初めての金槌使用に向け、木材と釘を用意してもらい事前練習２回実施。計４回の打ち合わせを実施し、手作りの椅子を完成させた。

児童感想

「今度は、犬小屋を作ってみたい。」「弟子になるにはどうしたらいいですか。」

※木工制作の様子を映像を９分間のハイライト動画で見ていただきます。その他の作品も展示しています。

3　成果

◇関係性の構築～小中の連携、異学年交流、互いの所属感連帯感を高めるきっかけ

◇興味関心の広がり。本物に触れ表現力が高まった。

◇新たなチャレンジへの意欲や、出かけたくなる「場」を広げる。「楽しかったから、また出かけたい！」

◇助けを借りて、大きな成果（満足感）を得る体験。礼儀や感謝の気持ちを養った。

◇支援学校への協力者や理解者の増加～チャンス増加。新聞掲載による反響や反応。

◇深まった絆「仲間と一緒だと楽しい！一緒に出かけたい！」

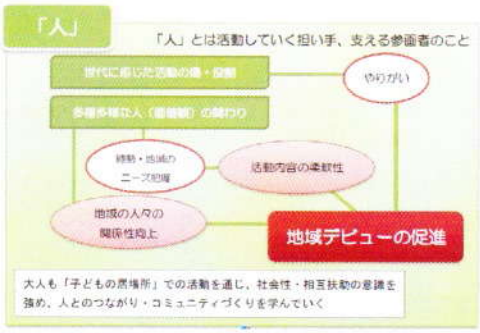
◇同世代（学校）の仲間は、生涯同じ時代を生きる仲間である。

利用する側の努力だけでなく、受け入れる側の理解や協力体制の問題ではないか？

支援が必要な人が積極的に地域へ出かけることによって、地域の中に、理解者や協力者が増えていくのではないか？

☆参考資料（一部抜粋）

平成２６・２７年度平塚市社会教育委員会議資料では、「支える参画者」について説明している。これからは、地域への発信を進め、地域の人を巻き込んでいく仕組みづくりが課題。



4　今後の課題

☆地域とのつながりを継続させる仕組みづくり

☆地域への情報発信